

# 平成31年度事業計画

山形県赤十字血液センター

## I 血液製剤の供給と献血者の受入れ

### 1 血液製剤の供給

#### (1) 供給計画

血液製剤の適正使用、医療技術の進歩、保険診療査定の厳格化等の医療情勢の変化により、輸血用血液製剤の需要は減少傾向にある。このような需要動向及び医療機関からの情報をもとに、平成31年度供給計画を策定した。

血液製剤種別	平成31年度				平成30年度	
	計画 (単位)	構成比	平成30年度 計画増減	平成30年度 計画対比	計画 (単位)	構成比
全血製剤	0	-			0	-
成分製剤	113,900	-	▲ 1,600	98.6%	115,500	-
赤血球製剤	50,000	43.9%	0	100.0%	50,000	43.3%
血漿製剤	13,900	12.2%	▲ 1,100	92.7%	15,000	13.0%
血小板製剤	50,000	43.9%	▲ 500	99.0%	50,500	43.7%

#### ア 赤血球製剤

平成28年度から平成29年度までの供給実績と比較して、平成30年度の供給状況は減少傾向にあり、平成31年度はほぼ横ばいの供給数を見込んでいる。

	平成28年度実績		平成29年度実績		平成30年度見込		平成31年度計画	
	本数 (本)	単価換算 (単位)	本数 (本)	単価換算 (単位)	本数 (本)	単価換算 (単位)	本数 (本)	単価換算 (単位)
1単位	680	680	732	732	849	849	504	504
2単位	25,005	50,010	25,401	50,802	24,763	49,526	24,748	49,496
計	25,685	50,690	26,133	51,534	25,612	50,375	25,252	50,000

#### イ 血漿製剤

平成29年度の供給実績は多かったが、平成30年度は減少傾向にあることから、平成31年度はほぼ横ばいの供給数を見込んでいる。

	平成28年度実績		平成29年度実績		平成30年度見込		平成31年度計画	
	本数 (本)	単価換算 (単位)	本数 (本)	単価換算 (単位)	本数 (本)	単価換算 (単位)	本数 (本)	単価換算 (単位)
200mL由来	75	75	35	35	73	73	48	48
400mL由来	6,115	12,230	6,829	13,658	6,319	12,638	6,460	12,920
成分由来	660	2,640	842	3,368	305	1,220	233	932
計	6,850	14,945	7,706	17,061	6,697	13,931	6,741	13,900

#### ウ 血小板製剤

平成28年度から平成29年度までの供給実績と平成30年度の供給状況は減少傾向にあり、平成31年度もさらに減少すると見込んでいる。

	平成28年度実績		平成29年度実績		平成30年度見込		平成31年度計画	
	本数 (本)	単価換算 (単位)	本数 (本)	単価換算 (単位)	本数 (本)	単価換算 (単位)	本数 (本)	単価換算 (単位)
5単位	150	750	127	635	56	280	72	360
10単位	5,347	53,470	4,972	49,720	4,906	49,060	4,782	47,820
15単位	74	1,110	107	1,605	28	420	36	540
20単位	88	1,760	167	3,340	37	740	64	1,280
計	5,659	57,090	5,373	55,300	5,027	50,500	4,954	50,000

《参考》東北ブロック管内各県血液センター別平成31年度供給計画

	赤血球製剤			血漿製剤			血小板製剤		
	計画 (単位)	平成30年度 計画(単位)	増減	計画 (単位)	平成30年度 計画(単位)	増減	計画 (単位)	平成30年度 計画(単位)	増減
青森県	69,620	68,500	1,120	17,740	15,500	2,240	92,270	81,520	10,750
岩手県	57,780	60,550	▲ 2,770	17,030	19,620	▲ 2,590	76,870	94,760	▲ 17,890
宮城県	96,450	98,710	▲ 2,260	35,180	34,690	490	144,110	150,420	▲ 6,310
秋田県	52,570	55,280	▲ 2,710	10,950	10,860	90	80,760	103,400	▲ 22,640
山形県	50,000	50,000	0	13,900	15,000	▲ 1,100	50,000	50,500	▲ 500
福島県	107,720	106,780	940	30,540	29,070	1,470	111,050	120,130	▲ 9,080
ブロック計	434,140	439,820	▲ 5,680	125,340	124,740	600	555,060	600,730	▲ 45,670

(2) 取組方針

- ・県内医療機関の血液製剤の需要状況を的確に把握し、安定供給に努める。
- ・東北ブロック血液センターとの連携を強化し、血液製剤の適切な在庫管理に努める。

2 献血の受入

(1) 献血受入計画

需要に見合った適正かつ効率的な献血者確保を推進するため、東北6県合計の供給計画を基にして、全血献血は東北各県の生産年齢人口を基準として、成分献血は東北各県の固定施設設置状況や確保実績等を基準に、東北ブロック管内各血液センターの「採血役割分担」により献血受入計画を策定した。

	平成31年度計画			平成30年度計画	
	計画(人)	種別構成比	平成30年度計画 対比	計画(人)	種別構成比
<b>全血献血</b>	<b>27,520</b>	<b>70.8%</b>	<b>100.1%</b>	<b>27,493</b>	<b>70.8%</b>
400mL献血	26,547	( 96.5% )	<b>100.6%</b>	26,379	( 95.9% )
200mL献血	973	( 3.5% )	<b>87.3%</b>	1,114	( 4.1% )
<b>成分献血</b>	<b>11,358</b>	<b>29.2%</b>	<b>100.0%</b>	<b>11,358</b>	<b>29.2%</b>
血漿	6,584	( 58.0% )	<b>126.3%</b>	5,214	( 45.9% )
血小板	4,774	( 42.0% )	<b>77.7%</b>	6,144	( 54.1% )
合計	38,878	-	-	38,851	-

《参考》東北ブロック管内各県血液センター別平成31年度献血受入計画

	計	全血献血			成分献血		
		400mL	200mL	小計	血漿	血小板	小計
青森県	45,854	32,664	1,197	33,861	6,713	5,280	11,993
岩手県	43,717	30,615	1,122	31,737	6,736	5,244	11,980
宮城県	89,753	57,985	2,126	60,111	20,211	9,431	29,642
秋田県	37,371	24,621	902	25,523	6,188	5,660	11,848
山形県	38,878	26,547	973	27,520	6,584	4,774	11,358
福島県	73,735	50,360	1,845	52,205	12,997	8,533	21,530
合計	329,308	222,792	8,165	230,957	59,429	38,922	98,351

## ア 全血献血

平成28年度以降、血液事業の広域事業運営体制のメリットを活かした採血役割分担を導入し、東北ブロック全体で必要数を確保することとしており、供給計画と献血可能人口に近い生産年齢人口(15歳以上65歳未満)の割合を加味して計画を策定した。

	平成28年度実績		平成29年度実績		平成30年度見込		平成31年度計画	
	本数	単位換算	本数	単位換算	本数	単位換算	本数	単位換算
400mL献血	1,176	1,176	1,213	1,213	1,116	1,116	973	973
200mL献血	26,481	52,962	27,350	54,700	27,081	54,162	26,547	53,094
計	27,657	54,138	28,563	55,913	28,197	55,278	27,520	54,067

## イ 成分献血

血小板製剤の減少及び血小板分割製造の導入により、安定供給に必要な血小板献血者は年々減少している。一方、免疫グロブリン製剤の適応症の拡大等により、血漿分画製剤製造に必要な原料血漿量は増加しており、血漿成分献血者数は年々増加傾向にある。

	平成28年度実績(本数)	平成29年度実績(本数)	平成30年度見込(本数)	平成31年度計画(本数)
血漿献血	5,679	4,784	5,901	6,584
血小板献血	4,568	4,772	4,754	4,774
分割製造用	969	1,201	1,859	2,200
分割製造以外	3,599	3,571	2,895	2,574
計	10,247	9,556	10,655	11,358

## (2) 稼働計画

県内を巡回する移動採血車(血液センター2台、庄内出張所1台)と、献血ルームSAKURAMBO(山形駅前出張所)において献血の受入れを行う。

### 【稼働予定】

移動献血車	献血ルーム	稼働数合計
528 台	363 日	891 稼働

## II 献血推進の重点項目

400mL献血者率を95%以上とする。

移動献血車1稼働あたりの献血者数45人以上を目指し、その向上に努める。

献血ルームSAKURAMBOを、広く県民に周知し、特に成分献血の協力者確保を図る。

## III 献血推進の施策

### 1 各種団体等との連携

#### (1) 行政との連携

県、保健所、市町村との連携を図り、採血・供給状況等についての情報共有を密にし、献血者確保に向け協働する。

#### (2) 各種団体への協力要請

ア ライオンズクラブ、ロータリークラブ、青年会議所、市町村献血推進協議会、市町村消防団、宅地建物協会等、献血推進団体との協力関係の強化を図る。

イ 商業施設をはじめとする街頭献血協力団体の協力を得ながら献血者確保に努める。

### (3) 献血セミナーの開催

将来の輸血医療の担い手となる小・中・高校生等を対象に、献血に対する正しい知識を身につけていただくことを目的とした「献血セミナー」開催に向け、各校への働きかけを強化する。さらに、企業に対しても働きかけを行い、移動献血バスでの全血献血推進につなげるようにする。

### (4) 学生ボランティアの育成

県内大学等の学生により構成する「山形県学生献血推進協議会」の拡充を図り、学生ボランティアの育成と同世代の若年層献血者の増加を図る。

### (5) 県内報道機関への協力要請

メディアを通じ、広く県民に献血の普及啓発を図るべく、県内報道機関への情報提供及び取材要請を積極的に実施する。

## 2 広報及びキャンペーン活動の推進

### (1) 各種キャンペーン

国民及び県民に対する献血の普及啓発を目的とした各種キャンペーンを展開する。

実施月	内 容
通年	Love in Action プロジェクト
6月	世界献血者デー
7月	愛の血液助け合い運動
8月	東北ブロック統一キャンペーン(サマーキャンペーン)
12月	全国学生クリスマス献血キャンペーン
1・2月	はたちの献血キャンペーン

### (2) 電子情報媒体の活用

ア 献血会場の告知、血液の過不足状況、キャンペーン情報等を、ホームページを通じ積極的に発信する。

イ 平成30年11月から全国的に稼働している複数回献血クラブ「ラブブラッド」会員の募集に努め、会員ページやSNS、メール配信による会員への情報提供の充実を図る。

## IV その他の事業

### 1 施設整備の準備

日本赤十字社血液事業本部が、全国の赤十字血液センターの建物の現状と修繕履歴を調査し、平成31年度から平成35年度までの施設整備更新計画を策定したことにもとづき、日本赤十字社山形県支部と日本赤十字社東北ブロック血液センターと協議し、山形県赤十字血液センターの移転計画の準備を進める。

### 2 調査、研究事業の推進

平成23年に設置された「山形県合同輸血療法委員会」の活動を推進し、「輸血療法セミナー」等の開催により、輸血医療についての最新の情報を共有する等、関係者との相互理解の機会創出に努める。

### 3 研修の受入

輸血医学事業の一環として、山形大学医学部学生及び県内医療機関に配属の初期研修医のうち、当センターにおける地域医療研修を希望する医師を対象に、血液事業及び輸血医療に関する研修を実施する。

### 4 造血幹細胞提供支援の実施

造血幹細胞提供支援機関として、骨髄ドナー登録希望者に対し、事前説明及び登録受付を献血会場にて、実施し、骨髄バンク事業を支援する。